

2023 年 7 月 27 日

株式会社 富士キメラ総研

〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目

9 番 1 号 日本橋三丁目スクエア

TEL. 03-3241-3490 FAX. 03-3241-3491

<https://www.fcr.co.jp/>

広報部 TEL. 03-3241-3473

<https://www.fuji-keizai.co.jp/press/>

デジタルサイネージの国内市場を調査

— 2027 年予測（2022 年比） —

■デジタルサイネージ市場 3,294 億円（65.4%増）

新規・追加導入とリプレースの安定的な需要、付加価値提案の増加により、拡大

●デジタルサイネージアドネットワーク市場 550 億円（6.3 倍）

メディアの媒体価値向上などが期待され、広告ビジネスの拡大をけん引

マーケティング&コンサルティングの株式会社富士キメラ総研（東京都中央区日本橋 社長 田中 一志 03-3241-3490）は、ディスプレイの大画面化・軽量化、ネットワーク環境の整備・低コスト化により幅広い分野で導入が進み、関連ソリューションとの連携といった活用提案が活発化しているデジタルサイネージ市場を調査した。その結果を「[デジタルサイネージ市場総調査 2023](#)」にまとめた。

この調査では、デジタルサイネージ市場の分析に加え、需要分野別にも捉えた。また、導入される機器／システム 18 品目、周辺／関連ソリューション 10 品目の市場も併せて調査した。

<調査結果の概要>

■デジタルサイネージの国内市場

	2022 年	2027 年予測	2022 年比
システム販売／構築市場	998 億円	1,477 億円	148.0%
コンテンツ制作／配信サービス市場	379 億円	517 億円	136.4%
広告ビジネス市場	615 億円	1,300 億円	2.1 倍
合 計	1,992 億円	3,294 億円	165.4%

2020 年は、新型コロナウイルス感染症の影響による人流抑制に伴う広告出稿の停滞により需要が低迷したが、2021 年から市場は回復に向かっている。2022 年は新型コロナの影響が緩和してきたことで人流が戻り、小売店舗／商業施設を中心に各分野で需要が回復に向かったほか、大手コンビニエンスストアでの本格導入開始もあり、市場は 1,992 億円と前年比二桁近く伸びた。

2023 年は、大手コンビニエンスストアでの導入によるシステム販売／構築の伸び、外出機会や訪日外国人の増加といった人流回復、デジタルサイネージアドネットワークの普及による広告ビジネスの好調などにより、市場は前年比 11.4%増の 2,219 億円が見込まれる。

2024 年以降は、2025 年にかけて「大阪・関西万博」を見据えた設備投資の活発化により前年比二桁増が続くと予想される。その後も新規・追加導入に加えリプレースによる安定的な需要や、ソリューションと連携したデジタルサイネージの付加価値提案の増加により、2027 年の市場は 3,294 億円が予測される。

【システム販売／構築市場】

サイネージ用ディスプレイと STB などの配信システムを対象とし、周辺機器や設置施工費なども含む。

2022 年は、新型コロナの影響により導入／検討を先送りしていたユーザーによる導入、コロナ禍でも業績好調なドラッグストアチェーンでの導入、コンビニエンスストアの本格導入により、市場は前年比二桁増となった。

2023 年は、コンビニエンスストアに加え、チェーン店から小規模店舗まで幅広いユーザーによる導入が進み、市場拡大が続くとみられる。また、2024 年から 2025 年にかけては「大阪・関西万博」を見据えた設備投資が活発化し、その後も導入増加が期待されることから、2027 年の市場は 1,477 億円が予測される。

なお、ディスプレイについては、大型モニターが市場をけん引している。また、狭ピッチ化と低価格化が進むフルカラーLEDディスプレイの導入が屋外に加えて、小売店舗／商業施設や交通機関など屋内でも増えている。

【コンテンツ制作／配信サービス市場】

配信システムのサービス料と配信サービス導入ユーザー向けコンテンツ制作料を対象とした（サーバー利用料含む）。

2022年のコンテンツ制作／配信サービス市場は前年比6.8%増と堅調に拡大した。

クラウド型の配信サービス（CMS）を提供する事業者の増加や、チェーン店を中心とした配信システムの新規導入により、配信システム稼働数は増加している。今後もクラウド型配信サービスの低価格化や配信サービスの認知浸透により、導入規模の大小を問わず利用が増えていくため、市場は拡大が予想される。また、大手を中心とした小売店舗、商業施設、外食店舗、レジャー／アミューズメント施設で一括配信による業務効率化を目的に導入が増加するとみられる。

【広告ビジネス市場】

ディスプレイを活用した広告の広告料を対象とした。

2022年は、クライアントの業績悪化や人件費／光熱費の上昇を背景とした広告宣伝費削減の影響もあり、人流が回復したものの、前年比7.9%増と伸びは緩やかだった。今後はデジタルサイネージアドネットワークの普及による媒体価値上昇や相乗効果によりさらなる広告出稿が期待されることや、インフォメーション用サイネージの広告利用が広がることで、2027年の市場は2022年比2.1倍が予測される。

分類別では、これまで市場をけん引してきた交通広告では、鉄道車両内のサイネージの需要回復がやや遅れているが、鉄道の駅構内やコンコース、タクシー車両などのサイネージは好調である。

インスタメディア他は、スーパー／ドラッグストアなどのリテールチェーン、自治体施設が引き続きけん引する中で、エレベーター内でのサイネージの増加や、改正銀行法の施行による銀行や信用金庫でのサイネージの広告利用、コンビニエンスストアを含む大手リテールチェーン各社による販促用サイネージの広告利用が増えていることから、高い伸びが期待される。

ビルボード（屋外ビジョン）は2021年以降、「クロス新宿ビジョン」の3D動画（巨大猫）が大きな注目を集めたほか、プログラマティック型の広告配信プラットフォームの登場もあり、再評価されている。また、デジタルサイネージアドネットワークによる他媒体との連携／一括配信なども増えていくとみられる。

■周辺／関連ソリューション市場

2022年	2027年予測	2022年比
623億円	1,626億円	2.6倍

周辺／関連ソリューションは、デジタルサイネージの付加価値や利便性の向上などを目的に導入されるソリューション10品目を対象とした。

AIやカメラ、ネットワークを活用した情報取得／発信の高度化に加え、安全配慮やBCP対策、店舗の少人化／無人化、ポスターなど紙媒体の貼り替え負担軽減による業務のDX化、利用者／来店客のデータ取得や分析／解析によるマーケティング用途、表示コンテンツ／広告の最適化などを目的とした導入が増加している。

2022年は、設備投資を再開するユーザーが増えたことから、導入が進み、市場が拡大した。中でも、防災／減災ソリューション、属性取得／動線分析ソリューション、混雑／利用状況可視化ソリューション、多言語対応ソリューション、建設／工事現場向けソリューションは前年比二桁増となった。

2023年以降は、インバウンド需要が回復に向かうとみられることや、2025年に開催を控える「大阪・関西万博」でのニーズの高まりを背景に、特に多言語対応ソリューションの伸びが予想される。

<注目市場>

●デジタルサイネージアドネットワーク

2022年	2027年予測	2022年比
87億円	550億円	6.3倍

広告を一括配信できるアドネットワークサービスのうち、デジタルサイネージ向けに広告配信を行うサービス

を対象に、同サービスを利用した広告料を算出した。従来型のデジタルサイネージ広告とは異なり、広範囲のデジタルサイネージ媒体をネットワークで接続し、一括で多面的・効率的な広告配信が可能となる。

２０２１年は「東京オリンピック・パラリンピック」開催による企業広告特需もあり、市場が拡大した。２０２２年はタクシー向けが堅調だったほか、トイレや携帯電話ショッブなど屋内の中小型ディスプレイ向けの配信が新たに開始され、面数の多い屋内広告配信で活用が進み、市場が拡大した。

２０２３年以降も、人流の回復に加え、既存のサイネージシステムと連携することで、デジタルサイネージアドネットワークを活用した広告需要が増加し、２０２７年の市場は５５０億円が予測される。各メディアの媒体価値向上や集稿率向上／媒体売上の拡大が期待され、広告ビジネスの拡大をけん引していくと予想される。

<調査対象>

デジタルサイネージ市場		
システム販売／構築市場	・ディスプレイ	・配信システム
コンテンツ制作／配信サービス市場	・コンテンツ制作	・配信／管理／運営
広告ビジネス市場	・ビルボード（屋外ビジョン） ・交通広告	・インストアメディア他
分野別市場		
・小売店舗／商業施設 ・その他店舗 ・外食店舗 ・交通機関	・金融機関 ・レジャー／アミューズメント施設 ・宿泊施設／結婚式場 ・公共施設	・一般企業 ・教育機関 ・医療機関 ・官公庁施設
機器／システム市場		
・ＳＴＢ ・中小型モニター ・大型モニター ・ＴＶ ・ビジネスプロジェクター ・演出照明用プロジェクター	・フルカラーＬＥＤディスプレイ ・電子ＰＯＰ ・タブレット端末 ・電子ペーパー ・空中ディスプレイ ・ホログラムディスプレイ	・インタラクティブディスプレイ ・マルチディスプレイ ・ウィンドウディスプレイ ・内蔵ディスプレイ ・ミラーサイネージ ・デジタルサイネージロボット
周辺／関連ソリューション市場		
・防災／減災ソリューション ・属性取得／動線分析ソリューション ・混雑／利用状況可視化ソリューション ・チャットボット／音声認識ソリューション ・人流解析ソリューション	・多言語対応ソリューション ・建設／工事現場向けソリューション ・工場可視化ソリューション ・ＡＲソリューション ・デジタルサイネージアドネットワーク	

<調査方法>

富士キメラ総研専門調査員によるヒアリングおよび関連文献、データベース活用による調査・分析

<調査期間>

２０２３年４月～７月

以上

資料タイトル：	<u>「デジタルサイネージ市場総調査 2023」</u>		
体	裁：	A4判	238頁
価	格：	書籍版	198,000円（税抜180,000円）
		書籍／PDF版セット	231,000円（税抜210,000円）
		ネットワークパッケージ版	396,000円（税抜360,000円）
発行所：	株式会社 富士キメラ総研		
	〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目9番1号 日本橋三丁目スクエア		
	TEL：03-3241-3490（代） FAX：03-3241-3491		
	URL： https://www.fcr.co.jp/		e-mail：info@fcr.co.jp
調査・編集：	第一部		

この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL：<https://www.fuji-keizai.co.jp/press/>